



中 田 小

学 校 教 育 目 標

さわやか笑顔中田っ子 思い合い ひびきあい
共に生きる力を育てます。

平成28年5月31日

中田小ホームページ

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/nakada/>



木を見て森を見る

校長 蒲谷 猛

ちょうちょう

野村秋足作詞／スペイン民謡

ちょうちょう ちょうちょう
菜の葉に とまれ
菜の葉に あいたら
桜にとまれ 桜の花の
花から 花へ
とまれよ 遊べ
遊べよ とまれ

※この歌の原曲は、蝶とは無関係で、ハンスという少年が突然旅に出かけ、成長して帰ってくるという物語歌です。



先日、久しぶりにオフの日曜日となり、拙宅の庭で花の植え替えをしていると、一匹の蝶が、今が盛りのアルストロメリアにとまりました。タテハチョウの一種にはまちがいないのですが、「キタテハ」ほどの豹紋はないので、「アカタテハ」かなと思いました。めずらしいので子どもたちを庭に呼んで、しばらく一緒にきれいな色の羽を眺めました。

モンシロチョウ、アゲハ、シジミなど、私が子どものころには、多種の蝶が数多く見られたものですが、緑地・草地の減少により昨今はずいぶんとその数が減ってしまいました。チョウ類は幼虫が食べられる草・葉に限られていて、特にタテハ類は、例えば「キタテハ」では食草はカナグムラだけというように、さらに狭まります。カナグムラは葉裏や茎が白く、細かいとげがあるので、藪に入って遊ぶときちくちくと痛かったことを思い出します。藪を覆い尽くすほどの雑草ですから、積極的に駆除されることになります。食草を失ったチョウの頭数は減少することになるわけです。

過日、朝会で子どもたちに本校の敷地内で見られる鳥の話をしました。初夏になって見られなくなりましたが、冬から春にかけては、特に校門から学校菜園付近でツグミがよく見られていたことが講話の着想のきっかけです。全校で耳を澄ませてみると、スズメやヒヨドリ、カラスなど、日頃よく見られる鳥の声に混じって、ちょうどタイミングのよいことに、「ジェージェー」という低めの濁った鳴き声を響かせながら、プール脇の木をめがけて鳥の群れが移動しました。オナガです。この鳥も最近姿が見られなくなってきている一種です。

「中田のまちの自然はどうなんだろう」と漠然と調べたり考えたりしても、その答えはなかなか見つかりません。どんな鳥が見られるのか、どこで見られるのか、数はどうか、季節によってどう変わるかということについてくわしく調べてみると、そのことを通してこの中田のまちの自然の様子が見えてきます。子どもたちに考えさせたいこと、気付かせたいことがあるとき、何を通してそれをとらえさせるのか吟味することがとても大切です。「木を見て森を見ず」と

いうことわざがありますが、反対に、視点をもってそこにある木を見続ければ、その森にくわしくなり、その特徴に気付くことができると思うのです。ただ、森を眺めていても何も気付くことはないでしょう。

昨年度、中田中学校ブロック3校の小中一貫教育推進ブロック目標を再検討し、あらためて全職員で共通理解を図りました。その目標は、次の通りです。

学校・家庭・地域が一体となった9年間の体験的な活動を通して、

- ・自分で考え、判断する力を育てます。
- ・自分も他者も大切に作る心を育てます。
- ・中田のまちのよさを愛する心を育てます。

ただ掲げていても、何も実現しません。子どもたちの考えを深めさせたり、見えていなかったものに気付かせたりするための、具体的な視点や活動を工夫していくことが、今年度の取組の一つです。ご家庭・地域の皆様からも、たくさんの手がかりをいただけましたら幸いです。